

ひがし

通算第 106 号
2025.3.15 No.22

「さす九」

S N S 拡散

これは、3月9日の西日本新聞の一面の見出しです。

サス九。今、交流サイト(SNS)で広まっている言葉だ。「さす九」が九州の略語で、他地域より男尊女卑の意識が根強いといわれる九州をやゆする。九州といえば「九州男児」のイメージが強いものの、地元からは「地域差別だ」と批判の声が上がる。(記事前文)

本当に九州では男尊女卑の考えが根強いのか。北九州市立大地域戦略研究所の特任研究員、下田泰奈さ

んらが22年に北九州市と共同で実施した「性別による無意識の思い込みに関する調査」によると、「女性には女性らしい感性があるものだ」(九州64.7%、全国49.5%)、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」(九州59.9%、全国48.5%)、「女性は感情的になりやすい」(九州54.0%、全国36.1%)の項目で九州が全国平均を大きく上回った。ただ全36項目のうち、全国平均を上回ったのは13項目にとどまる。下田さんは「一般的に都市部より地方の方が性別による役割意識が強い。この傾向は海外でもあり、九州に限ったものではない」と指摘。

その上で「『さす九』という言葉だけが独り歩きし、九州全体の印象を決めつけてしまうことに危険を感じる」と話した。

私はこの記事を読み、部落差別と一緒にだなあと思いました。何ら根拠のないことをさも自分が知っているかのように拡散させていく。そして聞いた人も、自分できちんと確かめたり、学習したりせずにもたまたま拡散させていく。このような無責任なうわさや偏見が差別を広げていくのだと思います。

私は、情報がある一面からだけとらえるのではなく、多面的に考えていくことが大切だと新聞を読みながら感じました。